

第六次総合計画 施策評価シート(令和元年度)

2-10

施策

都市基盤の整備を図り、各地域・地区の活性化と連携を推進する

担当部局

建設局, 教育委員会, 文化産業局



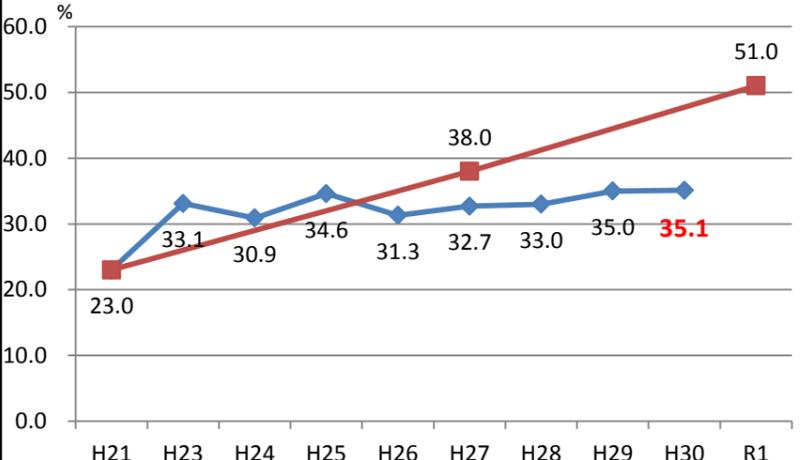
【躍動】 めざまちの姿 特色を生かした各地域の活性化と住民の生活向上が行われている

市の基本方針

- 各地域・地区の個性を生かした魅力ある拠点形成を進めるとともに連携を強化し、相互に機能が補完された一体感のある整備を進め、市全体の活性化につなげます。
- 広域幹線道路網整備の促進による結節点の優位性・利便性の向上を図るとともに、地域間の主要幹線道路整備による交流・連携の強化、地域内の幹線道路整備による渋滞緩和や安全な歩行空間の確保を進めます。
- 生活の基本となる住環境整備に向け、身近な道路や橋りょう、公園などの整備・維持管理に努め、安全性と利便性の向上を図ります。また、高齢者向けの優良な賃貸住宅の供給を促進し、ユニバーサルデザインに考慮した市営住宅の建て替えや、既存市営住宅の効率的・効果的な長寿命化を計画的に進めます。

数値目標

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法																																			
地域の歴史やまちづくりに関心をもっている人の割合	↑	市民アンケート調査で「あなたの住んでいる地域の歴史やまちづくりに関心をもっていますか。」という設問に対して、『もっている』と回答した人の割合。																																			
<table border="1"> <caption>地域の歴史やまちづくりに関心をもっている人の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>35.6</td><td>35.6</td></tr> <tr><td>H23</td><td>34.2</td><td>34.2</td></tr> <tr><td>H24</td><td>31.0</td><td>31.0</td></tr> <tr><td>H25</td><td>33.7</td><td>33.7</td></tr> <tr><td>H26</td><td>30.6</td><td>30.6</td></tr> <tr><td>H27</td><td>32.2</td><td>32.2</td></tr> <tr><td>H28</td><td>31.0</td><td>31.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>35.0</td><td>35.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>37.0</td><td>37.0</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>59.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H21	35.6	35.6	H23	34.2	34.2	H24	31.0	31.0	H25	33.7	33.7	H26	30.6	30.6	H27	32.2	32.2	H28	31.0	31.0	H29	35.0	35.0	H30	37.0	37.0	R1			R2		59.0	<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、1.4ポイント上がり、前年度に比べ、2ポイント上がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P58】</p> <p>(Ⅱ) 年代別に見ると、前年度と比較して70歳以上が減少したものの、その他の年代では前年度よりも増加している。特に16～19歳では大幅な増加が見られた。また、地域別では、庄、茶屋町、真備地域が昨年度より大きく増加し、45%を超えている。</p> <p>(Ⅲ) 目標値は下回っているものの、継続して増加傾向が見られる。日本遺産の認定等を契機に、地域の歴史や町の成り立ちについて、関心を持つようになったためではないかと考えられる。</p>
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																			
H21	35.6	35.6																																			
H23	34.2	34.2																																			
H24	31.0	31.0																																			
H25	33.7	33.7																																			
H26	30.6	30.6																																			
H27	32.2	32.2																																			
H28	31.0	31.0																																			
H29	35.0	35.0																																			
H30	37.0	37.0																																			
R1																																					
R2		59.0																																			
現在住んでいるところが住みやすいと感じている人の割合	↑	市民アンケート調査で「現在住んでいるところが住みやすいと感じていますか。」という設問に対して、『感じている』と回答した人の割合。 ※H21(基準値)は「現在住んでいる地区が住みやすいと思いますか。」という設問に対して『思う』と答えた人の割合。																																			
<table border="1"> <caption>現在住んでいるところが住みやすいと感じている人の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>51.6</td><td>51.6</td></tr> <tr><td>H23</td><td>58.7</td><td>58.7</td></tr> <tr><td>H24</td><td>53.7</td><td>53.7</td></tr> <tr><td>H25</td><td>61.2</td><td>61.2</td></tr> <tr><td>H26</td><td>56.7</td><td>56.7</td></tr> <tr><td>H27</td><td>57.6</td><td>57.6</td></tr> <tr><td>H28</td><td>61.4</td><td>61.4</td></tr> <tr><td>H29</td><td>60.9</td><td>60.9</td></tr> <tr><td>H30</td><td>58.9</td><td>58.9</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>70.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H21	51.6	51.6	H23	58.7	58.7	H24	53.7	53.7	H25	61.2	61.2	H26	56.7	56.7	H27	57.6	57.6	H28	61.4	61.4	H29	60.9	60.9	H30	58.9	58.9	R1			R2		70.0	<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、7.3ポイント上がり、前年度に比べ、2ポイント下がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P62】</p> <p>(Ⅱ) 年齢別に見ると、昨年度に比べ、全体で減少したものの、60%近くの人々が「住みやすいと感じている」と回答しており、特に、30歳代では大幅な増加が見られ、78%を超える値を示した。また、地域別に見ると、昨年度に比べ、庄地域で大幅な増加が見られ、68%の人が「住みやすいと感じている」と回答した。</p> <p>(Ⅲ) 昨年度は西日本豪雨災害により防災への意識が高まったことで低下したものと想定される。実績値は前年度に引き続き高い値を示している。現行施策の推進、防災への取り組み強化により目標達成は可能であると考えられる。</p>
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																			
H21	51.6	51.6																																			
H23	58.7	58.7																																			
H24	53.7	53.7																																			
H25	61.2	61.2																																			
H26	56.7	56.7																																			
H27	57.6	57.6																																			
H28	61.4	61.4																																			
H29	60.9	60.9																																			
H30	58.9	58.9																																			
R1																																					
R2		70.0																																			

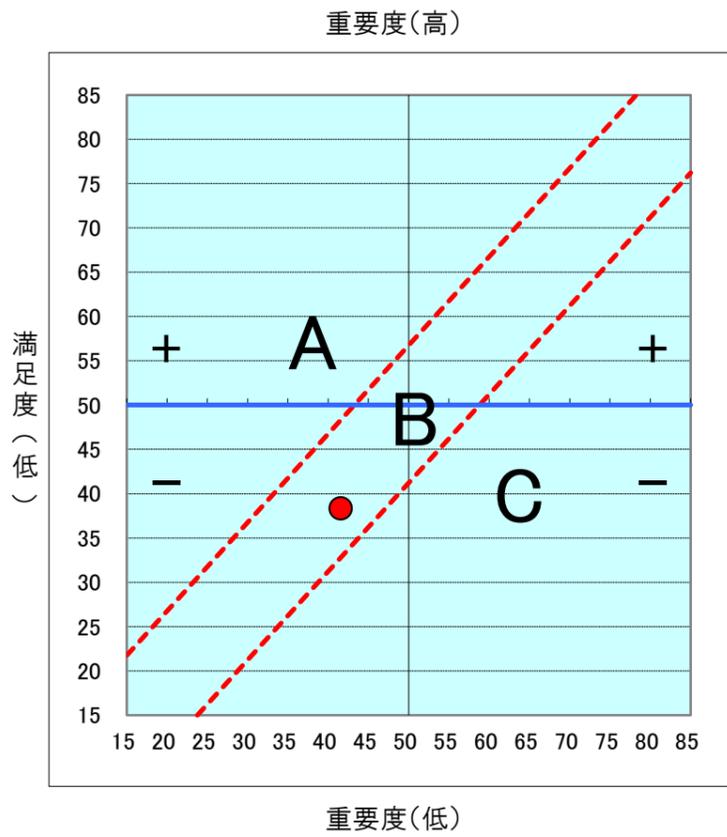
まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
自分の住んでいる地域に魅力があると感じている人の割合		市民アンケート調査で「自分の住んでいる地域に魅力があると感じていますか。」という設問に対して、『感じている』と回答した人の割合。 ※H21(基準値)は「自分の住んでいる地区に魅力があると思いますか。」という設問に対して『思う』と答えた人の割合。
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、12.1ポイント上がり、前年度に比べ、0.1ポイント上がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P61】</p> <p>(Ⅱ) 昨年度と比較して全体ではほぼ横ばいである。年代別では40歳代が大きく増加したのに対し、50歳代が大きく減少し、唯一30%を下回っている。また、地域別では、庄地域が大きく増加したのに対し、茶屋町、真備地域が大きく減少した。</p> <p>(Ⅲ) 昨年度は西日本豪雨災害により防災への意識が高まったことで低下したものと想定される。実績値は前年度に引き続き高い値を示している。現行施策の推進、防災への取り組み強化により目標達成は可能であると考えられる。</p>

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度決算額(千円)
重公創	立地適正化計画策定事業	(Ⅰ) 公共交通(軸)と連携し、都市・居住機能がコンパクトに集積した都市構造の実現を目指して、都市機能(医療・福祉・商業施設等)誘導区域や居住誘導区域を設定することなど、都市再生特別措置法に規定する立地適正化計画を策定することを目的に実施した。 (Ⅱ) 基本的方針を策定し、都市機能誘導区域や居住誘導区域、誘導施設並びに市が講ずべき誘導施策等について検討した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	8,259
重公創	美観地区電線類地中化事業	(Ⅰ) 伝統的な建造物と調和した街並みの景観美を向上させ、更なるにぎわいを創出し、当該エリアの将来にわたる魅力創出を目的として実施した。 (Ⅱ) 阿知42号線外2線の電線共同溝施工に伴う、支障物件移設を行った。 (Ⅲ) 平成30年度以降は本体管路及び引込管路埋設工事を実施する。	50,684
公創	町家・古民家で紡ぐ魅力拠点づくりと技術伝承事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域内の町家・古民家の保存・再生・活用による流域をつなぐ、新たな魅力拠点の創出を図るとともに、町家・古民家の再生活用に必要な技術伝承の仕組みづくりを行うことを目的に実施した。 (Ⅱ) 平成30年度は、町家・古民家を再生・利活用することで伝統的な文化を継承しつつ倉敷らしい未来の「町並みとまちづくり」を考える場として「倉敷市伝統美観保存条例50周年記念まちづくりシンポジウム」を実施した。また、備中各地区で独自ブランド化している「薄荷」を通じた情報・流通の共有、連携に向けた取り組みとして、「備中薄荷物語2019」を総社市内・倉敷市内2カ所で同時開催し、他地区とのネットワーク構築を目指すとともに、町家・古民家の活用事例として周辺古民家所有者に提示することで、既存ストック再生活用の効果及び成果を示し、良質な後継事業者の誘発やエリア全体の活力創出を図った。さらに、町家・古民家家屋のうち伝統工法により再生された複数の古民家を対象として伝統技術や工法についての現地研修等を開催し、町家・古民家再生のモデルとなる技術伝承スキームの構築及び伝統工法後継者の育成を図った。 (Ⅲ) 町家・古民家を再生・活用するために解決すべき課題について、これまでの調査結果や、シンポジウムでの議論等を踏まえて整理しつつ、技術伝承ワークショップの開催や、リノベーションマニュアルの策定を進め、さらなる事業推進を図る。	5,802
	まちづくり基金事業(再掲)	(Ⅰ) 「地域の歴史と文化を継承する貴重な街並みを守るとともに、地域の魅力向上、賑わい創出等のまちづくり活動を支援する」ため、平成25年度に倉敷市まちづくり基金を創設した。 (Ⅱ) 平成30年度は、事業審査会を3回開催し、倉敷、水島、児島地区合わせて16件を採択した。また、基金活用実績として、町並み保全・創出支援では、倉敷美観地区及び周辺エリアで9件の町家・古民家再生整備支援を行い、修景修理に加え、空き店舗活用による賑わいと活力の創出を実現した。 (Ⅲ) 年3回、基金活用事業の審査会を開催し、市内全域でのまちづくり活動の支援(年10事業以上の支援を目標とする)を行う。また、制度の周知を図るため、市民に対する出前講座を積極的に開催していく。	63,257
	児島駅前都市再生整備計画事業(ソフト事業)	(Ⅰ) 児島駅前都市再生整備計画事業(ソフト事業)は、公共交通機関を利用して「安全・安心・快適」に暮らし、過ごせる生活拠点を実現するために整備された「児島駅前から新病院が立地する都市機能集積エリア内」で、住民の皆様にごその成果を実感していただくとともに、賑わいと活力の創出を図ることを目的として、イベント開催等による効果促進事業を実施したものであり、平成29年度に当該計画事業は終了したが、エリアにおけるまちづくり活動を継続的に展開することを目的として、各種イベントを実施するもの。 (Ⅱ) 平成30年度は児島駅前から武左衛門通りにかけて、児島三白を象徴するイルミネーションで彩る「児島WHITE」を開催し、地域内外から集客するとともに、児島駅前中心部の回遊促進を図った。なお、夏季の開催については、西日本豪雨災害等の影響で中止となったが、冬季は児島の冬の風物詩として開催され、多くの人々が来訪した。 (Ⅲ) その成果を増幅し、持続力のある賑わいと活力に溢れるエリアであり続けるため、今後も官民の連携によるまちづくり活動を推進していく。	0

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度 決算額 (千円)
公 創	伝統美観保存条例制定 50周年記念事業	(Ⅰ) 伝統美観保存条例制定50周年を記念し、これまでの町並み保存のあゆみを振り返るとともにこれからの町並み保存のあり方などについての検討を行うことを目的に実施した。 さらに、町家・古民家のリノベーションに焦点を当て、直面する課題、その解決策の検討を行うことを目的に実施した。 (Ⅱ) 平成31年1月26日に倉敷公民館大ホールにおいて「伝統美観保存条例制定50周年記念シンポジウム『みんなでまもり育てる町家・町並み』」を開催した。当日は約230人の参加者があり、シンポジウムを通じて倉敷の町並みの魅力を再認識し、地域への愛着を一層深めることができた。 また、平成31年3月30日には、倉敷アイビースクエア別館フローラルコートにおいて「倉敷市伝統美観保存条例制定50周年記念まちづくりシンポジウム 倉敷らしい『町並みとまちづくり』」を開催した。当日は約100人の参加者があり、町家・古民家を再生・活用することで伝統的な文化を継承しつつ倉敷らしい未来の町並みとまちづくりを考える場となった。 (Ⅲ) 平成30年度で完了した。	1,314
	お茶と町並みで点(た)てる玉島の魅力 創出事業	(Ⅰ) 港町として栄えた玉島の町並みを軸としたまちづくりに、江戸時代から盛んな玉島の「お茶文化」を加え、情報発信できる「新たなまちづくり人材」を発掘し、同人材にまちづくりイベントを考え、実践できる機会を創出することで、主体的にまちづくり活動に取り組める人材に育成するとともに、エリアに活動基盤を整備することを目的に実施した。 (Ⅱ) 平成30年度は、玉島湊地区内の住民や玉島のまちづくりに関心のある方を招いて、「玉島湊まちづくり推進協議会」の活動報告会を開催するとともに、協議会が作成した「玉島湊まちづくりビジョン案」についての説明会と意見交換会を開催し、まちづくり方針の周知とまちづくり活動への参画意識の醸成を図った。 これと並行して、来街者に気軽に楽しんでいただき、玉島の「お茶文化」の魅力を発信するため、「玉島ふるさとふれあい物産展」等のイベントにお茶体験ブースを出展するとともに、初心者でも気軽にお茶会に参加していただけるよう、「お茶会初心者用パンフレット」を改訂・製作し、観光案内所や「月釜」を開催する各流派等に配布した。 (Ⅲ) 今後も、「玉島湊まちづくり推進協議会」を主体としたまちづくり活動を推進する。	812
	水島地域力調査事業	(Ⅰ) 水島地域に人々が集う(居住・来街)要因となる地域力を創出するまちづくりを推進し、一過性ではなく、将来に亘り持続力のあるエリアであり続けるためのまちづくりに向けて「水島地域力調査」を行い、その分析結果を、今後の取り組みの検討材料とすることを目的に実施した。 (Ⅱ) 平成30年度は、水島地域力調査として、水島地区の統計基礎調査に加え、水島地区の居住や来訪を促進し、消費や投資を拡大するような地域の潜在力を見い出すべく、市民約7,000人に郵送によるアンケート調査を行った。また、市外約10,000人を対象に、インターネットによるアンケート調査も実施した。 (Ⅲ) 調査結果を活用し、水島地区の目指す将来像を検討するワークショップ等を開催予定。	7,560
	水島リフレッシュ構想事業	(Ⅰ) 水島中心地域の活性化を図ることを目的としたまちづくり活動を支援し、今後の更なるまちづくり活動を促進することを目的に実施した。 (Ⅱ) 平成30年度は、水島地域全体を対象として倉敷市まちづくり基金の活用等による民間主体のまちづくり活動推進に向けた周知を行った。また、水島中心地域では、様々なまちづくり活動を行っている団体等に水島地域活性化の協力依頼を行った。 (Ⅲ) 官民連携を強化し、倉敷市まちづくり基金を活用した民間主体の持続力あるまちづくりを推進する。	0
公 都	新田上富井線ほか幹線整備事業	(Ⅰ) 新田上富井線、西阿知矢柄線、矢柄西田線、柏島道越線について、交通渋滞の緩和と道路ネットワーク強化を目的に道路整備を実施した。 (Ⅱ) 西阿知矢柄線及び矢柄西田線において、道路用地を取得した。また、他の路線においても工事を推進した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	585,055
	公園整備費(施設長寿命化)	(Ⅰ) 老朽化等による事故を未然に防ぎ、安全・安心で快適に利用できる公園を維持し、将来における維持管理費の縮減や平準化を目的に公園施設の更新を実施した。 (Ⅱ) 公園施設長寿命化計画の見直しを行うとともに、松江第1公園ほか34公園における54施設の更新及び鶴形2丁目公園ほか29公園における70施設の補修が完了した。また、中央2丁目公園ほか4公園における5施設の更新に着手した。 (Ⅲ) 倉敷市公園施設長寿命化計画に基づき、継続して実施する。	125,671
	街区公園整備事業	(Ⅰ) 都市における緑とオープンスペースを確保し、快適な市民生活実現のため、住民がもつとも身近に利用できる街区公園を整備するとともに、既設公園の施設の充実と改善を実施する。 (Ⅱ) 1公園の用地取得と4公園の施設改善等を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	76,010
	水路新設改良事業	(Ⅰ) 農業基盤整備を行うために、倉敷市内の水路について、護岸整備、補修、コンクリート製水路の設置、底打等の改良を実施した。 (Ⅱ) 豊洲201号水路ほか48路線の水路改修等を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	173,031
	市営住宅長寿命化維持管理事業	(Ⅰ) 倉敷市営住宅等長寿命化計画に基づき、老朽化した市営住宅に対し、計画的な修繕及び改修工事を行い、住宅の延命化を図るとともに、施設の維持管理コストの削減を目的に実施した。 (Ⅱ) 計画に基づき、外壁塗装修繕、屋上防水修繕などの修繕9件を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	71,860
都	中庄団地整備事業	(Ⅰ) 倉敷市住生活基本計画に基づき、要支援世帯に対して不足する市営住宅300戸を供給することを目的に実施した。 (Ⅱ) 事業が完了し、中庄団地に300戸の市営住宅を整備した。 (Ⅲ) 指定管理者と連携し、適切に管理運営を行う。	5,263,956

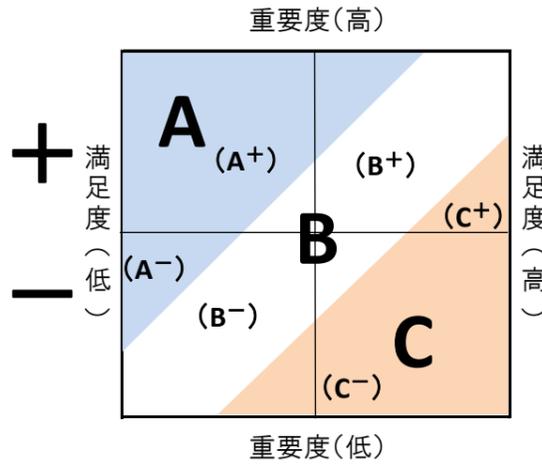
市民の重要度・満足度(R1.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
B ⁻	38.30	41.58

●重要度に見合った満足度が得られている(B)
●重要度が平均値より低い(-)

【グラフの見方】



A: 重要度に見合った満足度が得られていない領域
 B: 重要度に見合った満足度が得られている領域
 C: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域

※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)
 +: 重要度が平均値より高い部分
 -: 重要度が平均値より低い部分

A⁺, A⁻, B⁺, B⁻, C⁺, C⁻

A⁺: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

課題

- 市内全域で都市再生整備計画や、倉敷市まちづくり基金等の様々な制度を活用し、各地域・地区それぞれの資源を活かした事業を実施する。

今後の取組み方針

- 市内各地域、地区の歴史と文化に根差し、各エリアの特性を生かしたまちづくりに、様々な補助制度を最大限活用しながら、引き続き官民一体で取り組む。
- 水島地域については、水島リフレッシュ構想事業計画に基づき整備された、水島中央公園等のハード事業や市民協働等によるソフト事業の実施で得られた成果を活かすとともに、引き続きエリアの活性化に向けた事業を検討・実施する。